

書下し・存在の秘法——湯殿山は花だ。存在の花なのである

湯殿山の哲学

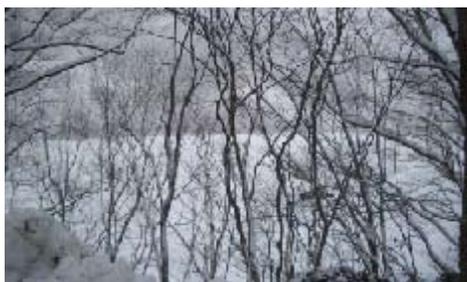
修験と花と存在と

山内志郎

2017年7月24日刊行予定 四六判・240頁 本体定価2500円 ISBN978-4-906791-71-2 C0010

香山リカ氏評——

「湯殿山は花だ。存在の花なのである」と、この書の最後に山内さんは記す。西洋哲学で言われる〈存在〉は一般的で抽象的だが、湯殿山の近隣で生まれ育ち、ごくあたりまえにその研究を続けてきた著者にとっての〈存在〉は、もっとやさしげではかなげで、この世界にふたりとない〈私〉をそっと成り立たせるものだ。それを山内さんは「花」と呼んだ。



湯殿山とスコラ哲学の上に、そしてそのあわいにたゆたう〈私〉の上にも、途切れることなく花がふりつむ……。これぞ山内哲学の到達点なのではないだろうか。



聖母マリア

山内志郎（やまうち・しろう）

1957年生まれ。専攻、中世哲学。東京大学大学院博士課程単位取得。

新潟大学人文学部教授を経て、現在、慶應義塾大学文学部教授。著書に

『普遍論争——近代の源流としての』（哲学書房，1992），『天使の記号学』

（岩波書店，2001），『笑いと哲学の微妙な関係——25のコメディと古典

朗読つき哲学饗宴』（哲学書房，2005），『〈冗長さ〉が大切です』（岩波書

店，2007），『存在の一義性を求めて——ドゥンス・スコトゥスと13世紀の

〈知〉の革命』（岩波書店，2011），『感じるスコラ哲学 存在と神を味わった

中世』（慶應義塾大学出版会，2016）ほかがある。

終章	第七章	第六章	第五章	第四章	第三章	第二章	第一章	はじめに	目次
スコラ哲学へ	湯殿山と仙人沢	湯殿山への道	水と川と山からなる世界	自然と哲学	本道寺という村	花の存在論	湯殿山の泉	山の彼方へ	

ぷねうま舎 〒162-0805 東京都新宿区矢来町122 第二矢来ビル3F Tel.03-5228-5842

締め切り 7月12日 Fax.03-5228-5843

山内志郎

湯殿山の哲学

修験と花と存在と

四六判・上製240頁 本体定価2500円 ISBN978-4-906791-71-2 C0010

貴店印

新刊委託

冊

ぷねうま舎